

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 邦文



■ 新病院での出生数が増えています

嬉しいニュースです。市民病院が新しくなってから、市民病院で赤ちゃんを産む人が増えています。

旧病院の最後の1年間は、月平均17人でしたが、新病院に引っ越してから、10月は30人。11月と12月は29人ずつ。1月は36人。2月はちょっと下がって21人。それでも旧病院の時期と比較して、月1.5～2倍の数です。この調子だと、引っ越し後の1年間は、里帰り出産を含め、300数十人が生まれそうです。何かにつけ少子化を嘆くことの多い今の時代ですが、こんな話を聞くと嬉しくなりますね。

また、病院全体で215あるベッドについても、200を超えて使用される日が増えるなど、稼働率が高くなりました。経営の苦しい時期が長かっただけに、これも嬉しいニュースです。



■ 若者交流推進事業をしばらく休みます

議会から、手法の見直しを強く求められていた本市直営の若者交流推進事業でしたが、しばらくお休みすることにしました。平成25年

10月から市内の様々なロケーションを使いながら、毎月続いた若者の「出会いの場」。参加者の合計は、市内外から25歳以上の男女合わせて約240名。終始、60～70歳代の5人の男女ボランティアが協力してくれました。

先日、これまでの全参加者に対して改めてアンケートを行ったところ、「出会いがない」「大切な出会いの場である」など、こうした場を求める声のほか、「いろいろな人と話ができる」「楽しかった」といったご意見に加え、中には「軽い気持ちで会いはじめ、その後正式におつきあいするようになった」、「ちょっとしたことでメールをするラブラブカップルです」、「結婚することになりました」、「交際一ヶ月。結婚話もあります」など、この事業をきっかけとして嬉しい展開もあったことがわかりました。まだまだ見直す点はありますが、決して無駄ではなかった、と感じています。

来年度は一旦お休みをしますが、その間、県では「未来開拓チャレンジプラン」のうち「結婚に向けた情報提供や出会いの場などの機会の提供」（重点施策33のひとつ）として、県内4箇所の結婚相談窓口となる「やまぐち結婚応援センター」の開設や婚活イベントを開催することですので、これらに協力するという形で経験を積み、事業のPRや手法について、こうすればもっと良くなる、といった意見も参考にしながら、再起を期すつもりです。